

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470300993		
法人名	有限会社 ヘルパーステーションよろこび		
事業所名	グループホームほたる		
所在地	三重県鈴鹿市池田町1335番地の7		
自己評価作成日	令和4年10月25日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosvoCd=2470300993-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosvoCd=2470300993-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和4年11月14日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人の思いを把握し、利用者が安心して暮らしていけるよう努めている。また、利用者のできる範囲において食事の準備や洗濯・掃除などをともに行き、在宅時と同じような生活が送れるよう努めている。  
 家族に対しては、利用者の日々の状況を「介護支援経過」にて報告をしている。ほたるで実施した行事等については「ほたる通信」にて写真付きで報告をしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺の広大な田園風景に工場・マンション・新興住宅が増えてきている。代表、管理者、介護支援専門員、ベテラン職員達が一丸となって利用者を支え、開設19年を迎えた。コロナ感染症が蔓延する以前には様々な地域との交流があったが、現在も中止されたままで、外出や買い物、イベントを計画することができない状況が続いている。そんな中、職員は、「その人らしい生き方、共に歩き、共に生きる」という理念を念頭に、利用者へ寄り添い、喜ぶ顔を目標に支援している。一人ひとりの個性をそのまま受け止め、否定をしない姿勢を大切にしている。毎月ほたる通信と共に利用者の日々の状況を細かく記載した「介護支援経過」を家族に送り、家族からは感謝の言葉が寄せられ信頼が厚い。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしい生き方、共に歩き、共に生きる」の理念はわかりやすく職員も理解している。職員はこの理念を踏まえて実践をしている。	一人ひとりの個性を受け止め、その人らしい生き方を続けていけるように支援している。勤続年数の長い職員が多く、理念が浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	一ノ宮市民館の「いきいき講座」に参加し、地域住民と一緒に参加していたが、新型コロナにより参加を見合わせている。	コロナ禍で、これまで続けてきた地域交流は中止されたままである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れ時に地域の方にも参加をしていただき、交流を持ちつつ認知症の方を理解していただくようにしていたが、現在は新型コロナによりボランティア等の受け入れ自体行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、外部評価の結果や新型コロナへの対応等(ワクチン接種や職員のPCR検査等)を報告している。新型コロナの対策により、今年度も集まっての会議は行えておらず、報告書の送付とさせて頂いている。	コロナ禍で、運営推進会議は開催できていない。参加予定者には、事業所の状況や取り組みについて書面にて報告し、意見をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の実情は運営推進会議の報告書により理解して頂いている。加算や基準等でわかりにくい点については広域連合へ問い合わせなどを行っている。	分からないことがあれば、広域連合に問い合わせをして助言をもらっている。生活保護受給者を受け入れたことで、市の保護課に何度も相談することがあった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については施設内研修において具体的な行為等の説明をし、理解している。また不適切なケアについても合わせて研修を行っている。	身体拘束適正化委員会で「不適切なケア」について勉強会をし、職員は身体拘束の弊害について理解している。現在拘束に当たる事案はない。議事録を整備した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束排除の研修時に、高齢者虐待法や虐待の種類などの説明を合わせて行っている。また不適切なケアについても研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護の研修に参加したことがある。今年、成年後見制度を利用している利用者が2名入居され、利用者に必要な物品等があれば、後見人に確認しつつ購入等を行うようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項説明書の内容を時間をかけて説明し、理解して頂いている。年度改定等で変更必要となったときは文章で説明し、家族様の不明な点は電話や面談時に対応する。家族会が開催可能となれば、家族会で説明する。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員に月一回来ていただき利用者とは対談して頂いていたが、新型コロナにより中止している。家族様等からは来所の際に要望があればお聞きするようにしている。	何かあればいち早く家族に連絡し報告しているので、信頼関係は築けている。家族は毎月のほたる通信を楽しみにしている。病院受診も職員が対応し喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングの時に意見や提案を聞くようにしている。代表者は普段から職員とコミュニケーションを取り、話しやすい環境を作るようにしている。	職員の異動が少なく、勤続年数の長いベテラン職員が多い。職員間のコミュニケーションをとる機会が多く、何かあれば意見を出し合い話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務日や勤務時間の希望を聞き、できるだけ希望に沿う様シフトの調整を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修については掲示をし、傘下の声掛けを行っている。施設内研修として身体拘束の研修等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス協議会に入会しており、会合等に参加した際、交流を持つようにしていたが、新型コロナにより現在は会合等に参加していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人との面談、ケアマネさんからの情報提供を元に、入所後安心して暮らして頂くため関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様との面談でお話を伺い、それを元にサービス計画書を作り、入所時に説明し家族様にご意見を伺いながら、信頼関係を作れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報提供を職員も理解し、家族様にも同意頂いたサービスを入所時から提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできる事、掃除や食事作り洗濯物干し、洗濯物たたみなど、積極的に参加して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナのため、面会を制限したりで、直接会う機会は減ったかもしれませんが、ご本人の状態を報告しメールや電話で相談、意見を聞きながら、ご本人を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご姉妹が遠方から会いに来て下さった際は駅までの送迎をしたり、面会の際はゆっくりお話できるよう支援に努めている。	コロナ禍で家族との面会は中止していたが、玄関先の事務所の入り口のガラス越しで対面してもらったり、感染数が減った時には事務所での面会に切り替えたり状況を見ながら対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士を同じテーブルにしたり考えながら、トラブルなく気持ちよく過ごせるよう考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば対応するが、今は個人情報に敏感なご時世で、こちらから連絡を取る事は遠慮してしまう。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症でご自分の思いや暮らしの希望を言える方は少ないが、日々の生活の会話や様子で察して一人ひとりが気持ちよく暮らせるよう考えている。	日頃から一人ひとりとコミュニケーションをしっかりとることを心掛けている。言葉にできない場合は表情やしぐさから汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や得意な事は、家族様やご本人から伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で、どうやって暮らしたいか、できる事、苦手な事は把握できる。得意な事、出来る事を役割として、ご本人の張りになるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題は、普段の生活の中から見えてくる。まず、職員で相談し、医師、看護師、家族、介護用品の事業者など色々な意見を伺いながら、より良い結果になるよう対応している。	日々の生活の中から見えてきた課題について職員で検討し、家族の要望、医師・看護師の意見を加味し、一人ひとりの現状に見合った介護計画を作成している。職員が介護計画に目を通し、ケアに反映できるよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の記録を読んで課題があれば、ミーティング時に相談して介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助、足りない衣類の購入など家族様の状況を把握しているので柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は市民館のいきいき講座やそば打ち体験、楽器的演奏会にも出かけたが、コロナで参加していない。梅やコスモス見物や近くの民俗資料館など人があまりいないところには出かけて気分転換してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医に継続して診てもらっている利用者様も、認知症が悪化した場合は専門医受診を薦める事はある。かかりつけ医はそれぞれ決めてもらっている。医師に現在の状態を報告するために、施設が受診介助している。	入居時に本人・家族から要望を聞き、以前からのかかりつけ医か協力医の選択をしてもらっている。協力医は緊急時には全員の対応もしてくれ、24時間連絡が可能なので職員・家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師には、利用者一人一人の体調、皮膚状態、排便状況、服薬内容の変更など報告して診てもらっている。外反母趾で痛みが出た利用者様アドバイスで適切な受診ができた。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、必要な物を準備したり届けたり、情報提供も行う。入院時の様子は確認したいと思っても大きな病院では難しいです。退院の際は今後のケアについて確認し、退院後の生活がスムーズに送れるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にグループホームでできる看取りについては説明します。状態に変化があれば家族様に報告し気持ちを確認する。兄弟で意見がまとまらないような場合もあるので、看護師にも話し合いに入ってもらったりしながら慎重に決めていくように取り組んでいる。	入居時に看取りについて指針を基に本人・家族の意向を確認している。実際に食事が取れなくなり終末期を迎えた時には、事業所でできることとできないことを明示し方向性を決めてもらっている。病院か他の高齢者施設に転居となることが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	過去に消防署の延命演習を受講しているが定期的には行っていない。また、池田町の消防訓練に参加したときに応急処置等の説明を受けれていたが、新型コロナウイルスにて訓練自体に参加できていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年2回行っている。また、水害時においては、車を利用してノ宮小学校までの避難訓練を行っている。	11月と5月に火災による避難訓練を実施、駐車場までの避難について時間を測定し、終了後に意見を出し合い振り返りをした。非常時の水・カンパン・米・オムツを備蓄している。	日本各地で毎年異常気象による災害が発生している。今後は様々な災害を想定した訓練について机上訓練も交えながら回数多く計画・実施されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修で言葉掛けには注意するよう学んでおり、実行するよう努めている。	認知症のために様々な思わぬ行動や発語があった時にも、職員は慌てることなくそれを受け入れて変わらぬ支援をしている。不適切ケアについて学び、プライバシーの確保のために居室入り口のドアとカーテンの使い分けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様、それぞれご自分の思いを自由に表現できていると思います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応、施設としての1日の流れは決まっていますが、強制ではなく、利用者様の体調や気分で過ごしたいようにしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧したり、着たい洋服を選び、自由に着てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや、テーブル拭き、配膳、下膳、トレーの拭き取り等手伝ってもらっている。	開設当初から手作りの料理にこだわり、好評である。地元の店で食材を買い求め、職員が調理している。利用者はホワイトボードに書かれた毎日のメニューを楽しみにしていて、対面キッチンから漂う調理の匂いが利用者の刺激になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの咀嚼力、嚥下の状態などで刻みをいれ、とろみをつけている。7分づきご飯に野菜中心の献立を提供している。水分も1日1300ccを飲用してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。上手く磨けない利用者様は職員が仕上げ磨きをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意なく時間を決めてトイレ誘導しても、トイレが排泄の場と認してできない時があり難しい。上体を前傾姿勢にして腹圧をかけるよう声掛けしながら、できるだけトイレで排泄してもらうよう支援している。	自立して布パンツの利用者もいれば、尿意や便意の感覚のない利用者もいる。仕草などから声掛けしたり、時間を見計らってトイレ誘導している。車いすの利用者は夜間オムツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服薬の副作用で便秘になりやすい利用者様もいる。医師に相談しながら便秘薬の調整を行っている。便秘予防にヤクルトを飲用してもらう利用者様もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望にそった入浴は厳しいが、湯加減を聞き、冬至にはゆず湯を用意したり、職員と会話を楽しみながら、気持ちよく入浴できるよう支援している。	一人週3回、午後から入浴支援をしている。現在何らかの理由をつけて入浴を拒否する利用者はあるが、強制はせず相性の合う職員が対応してなんとか入浴に漕ぎつけている。職員と1対1でゆっくりとできる時間を楽しみにしている利用者もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具を清潔に保ち、室温を管理し、季節の変わり目には掛け布団を調整したりしながら、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は、職員がすぐに確認できるカウンターのファイルに置いてある。処方内容の変更は連絡ノートで周知できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中から、一人ひとりの出来る事、得意な事など見極め、役割や楽しみ事とし、施設生活の張りになるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望にそってではできないが、外出は好きな方が多いので、コロナで人出が多い所は避け、外出先を考えながら取り入れていく努力はしています。	気候のいい時期には周辺の地域を散歩したり、玄関先での外気浴をすすめている。コロナ禍が落ち着いた時期に梅・桜・コスモス畑などをドライブを兼ねて観に行ったり、楠町の民俗資料館を訪ね昔の暮らしなどを観て楽しんだ。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本にお金は持って頂いていません。入所時に財布がバックに入っていたため現金所持している方はみえます。買い物でお金が必要な場合は、施設が立て替えるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は、希望があればいつでも対応しています。手作り年賀状も家族様に送れるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度の管理、照明など快適に過ごせるよう調整している。職員が持ってきた花を飾り、利用者様に手伝ってもらい一緒に作った壁面の作品も飾って居心地よく過ごせる工夫をしている。	リビング兼食堂の壁面には1年を通して作成した壁飾りが飾られ、明るく楽しい雰囲気が漂っている。対面キッチンからは利用者の見守りができ、安心に繋がっている。冬場の乾燥には特に注意を払っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中に一人になれる場所はないので、ゆっくりしたい時は居室に戻ってみえます。気の合った利用者様は同じテーブルで、会話を楽しめるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際に部屋に入るサイズのものであれば、何を持ってきてもらってもいいと伝えており、家族様やご本人にお任せしている。職員は居心地よく過ごせるよう整理などの手伝いを行っている。	居室には、ベット・エアコン・収納ボックスが設備され、自宅から使い慣れたタンスや家具を持ち込み、個性あるくつろげる空間となっている。位牌や家族の写真を身近に置いている利用者もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで廊下には手すりもある。安全に自由に行動できるよう工夫している。		